

IFRS-AC 会議(2013年6月)出席報告

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
参与・教育第二企画部長
金子 誠一

6月10日、11日の両日、ロンドンにおいて開催された国際財務報告基準(IFRS)財団のIFRS 諮問会議(IFRS-AC)*の概要について下記のとおり報告します。

*国際会計基準審議会(IASB)に対し、検討事項やその優先順位をアドバイスするための組織。従来は基準諮問会議(SAC)と呼ばれていたが、2010年4月に名称変更した。委員は45名強。日本からは証券アナリスト協会代表の筆者(金子)に加え、経団連代表の村岡富美雄(株)東芝取締役監査委員会委員長が委員。他に金融庁がオブザーバー(発言権あり)で参加。IFRS-AC 会議は年に3回、ロンドンで開催される。今回、金融庁からは園田周企業開示課課長補佐が出席。

記

1. 議事一覧

番号	日時	議事
(1)	10日 9:00-9:30	開会
(2)	同 9:30-10:30	IASBの活動報告
(3)	同 10:45-11:45	トラスティの活動報告
(4)	同 12:45-13:30	IFRS採用のコスト・ベネフィット
(5)	同 13:30-14:15	概念フレームワーク
(6)	同 14:15-15:45	IFRS for SMEs (説明・分科会)
(7)	同 15:45-16:30	導入後レビュー
(8)	同 16:30-17:30	IFRS for SMEs (全体会議)
(9)	11日 9:00-9:30	ASAF
(10)	同 9:30-10:10	IFRS-ACの役割と構成(説明) XBRLの説明
(11)	同 10:10-11:10	IFRS-ACの役割と構成(分科会)
(12)	同 11:10-12:00	金融商品一測定と分類
(13)	同 13:00-14:00	IFRS-ACの役割と構成(全体会議)
(14)	同 14:00-14:30	保険契約
(15)	同 14:30-15:00	まとめ・閉会

*会議資料および録音は下記から入手できる。

<http://www.ifrs.org/Meetings/Pages/AC-Jun-13.aspx>

2. 議事概要

上記議事一覧に従い、日本からの参加者の発言要旨にも触れながら議事概要を紹介する。

(2) IASB の活動報告

Mackintosh IASB 副議長および IASB スタッフから基準開発の現状について説明あり。間もなく公開される収益認識の会計基準については、作成者や監査人を含む Forum を設けて、新基準が正しく解釈され実務に適用されるようにしたいとの説明があった。これについては、組織の性格について誤解されないよう慎重に運用して欲しいとの要望があったが、組織の新設については好意的に受けとめられ、保険などの新基準についても同様の組織が欲しいとの声もあった。

(3) トラスティの活動報告

Prada IFRS 財団トラスティ議長から、IFRSF の資金調達、人事等について説明あり。

日本については、新たな意思決定はないもののIFRS採用を視野に入れた前向きな努力が続いているという話があった。

(4) IFRS 採用のコスト・ベネフィット

IFRS財団は世界各国におけるIFRS採用状況を調査し、この結果を6月初めにホームページ上で公開したが、その内容について同財団スタッフから報告があった¹。また、カナダおよび韓国の委員から、両国におけるIFRS採用経過についての説明があった。韓国は、会場で“IFRS Adoption and Implementation in Korea, and the Lessons Learned”という46版110頁の美しい小冊子を配布していた。本セッションでは日本からの参加者から次のコメントがあった²。

園田オブザーバー：この調査は情報価値が高く今後、定期的なアップデートを続けていただきたい。日本では現在、約20社がIFRSを採用しているが、数年内には60社程度に増える見込みである。IFRSを採用の条件緩和も行った。

村岡委員：わが国では上場企業のトップ200-300社が時価総額の60-70%を占める。IFRS採用といったとき、強制適用しているか否かよりも、大手の会社が採用しているかどうか重要だと思う。

(5) 概念フレームワーク

IASBのスタッフから、間もなく公表予定の「概念フレームワーク」討議資料の内容について説明があった³。OCIについては、①適用を狭くし、全面リサイクル、②適用を広くし、限定リサイクル、③OCIを廃止し純利益に一本化する（少数意見）の3アプローチを検討していると説明していた。

筆者は、次のコメントを述べた：日本のアナリストのコンセンサスはOCIの幅広い適用、全面リサイクルで説明にはない、第4のアプローチである。欧州のアナリストにもこうした意見はあり、このアプローチも検討して欲しい。

この意見については議長から、討議資料へのコメントレターを提出して欲しいという要望があった。

¹ 調査結果は下記から入手できる。

<http://www.ifrs.org/Use-around-the-world/Pages/Jurisdiction-profiles.aspx>

² このレポートは下記から入手できる。

<http://eng.kasb.or.kr/>

³ 討議資料は7月18日に公表され、下記から入手できる。

<http://www.ifrs.org/Current-Projects/IASB-Projects/Conceptual-Framework/Discussion-Paper-July-2013/Documents/Discussion-Paper-Conceptual-Framework-July-2013.pdf>

(6,8) IFRS for SMEs

IFRS for SMEs は非上場企業向けの簡略版 IFRS である。一部の発展途上国に IFRS SMEs を上場企業に適用することを認めて欲しいという要望がある。これを認めるかどうかについて、分科会も含めて議論した。筆者は、株式市場が極めて小規模で、自国の会計基準が貧弱な国もあるので、根幹部分はフル IFRS と共通である IFRS for SMEs の適用は進歩につながるのでは、認めるべきではないかという意見を述べたが、こうした見方は少数派で、多数意見は上場企業に「IFRS for SMEs に準拠した財務諸表」という表記を認めることはフル IFRS のブランドを傷つけるという理由で反対であった。筆者にとっては、あらためて、多くの委員の会計基準統一への執念を感じさせるセッションであった。

(7) 導入後レビュー

IFRS8 号（オペレーティング・セグメント）および IFRS3 号（企業結合）の導入後レビューについて、IASB スタッフから説明があった。これからレビューを行う IFRS3 号については、リーマンショック後、企業買収活動が低下したので、いまからレビューを行っても十分な事例が集められないのではないかという意見があった。IASB スタッフからは、事例不足が確認された場合は、本格的なレビューを延期するとの回等があった。

(9) ASAF

IFRS 財団スタッフから ASAF が設立され、4 月に第 1 回会議を開催したことの報告があった。

(10,11,13) IFRS-AC の役割と構成

IASB に XBRL について助言する組織（XBRL Advisory Council）があるが、この組織が初期の役割を終える段階にあるので、これを IFRS-AC と合併させるべきかどうかを主要テーマに分科会を含めて議論した。結論としては、両組織の目的が異なる（IFRS-AC は戦略アドバイス、XBRL-AC はテクニカル・アドバイス）ので、合併は合理的でなく、XBRL-AC の代表 1-2 名が IFRS-AC に出席すれば良いという意見がコンセンサスであった。筆者は分科会のひとつの議長を務めたが、財務諸表ユーザーが多かったこともあり、IFRS-AC 委員も大半はユーザーの代表者にすべきであるという過激な意見もあった。

(12) 金融商品一測定と分類

IASB スタッフから公開草案「金融商品一測定と分類」に寄せられてコメントについて紹介があった。一定の固定利付金融商品に新たに FVOCI 区分を設ける提案については、意見は分かれたが、大多数は提案を支持したと説明していた。FVOCI 区分の新設は、保険の新基準（下記(14)参照）に対応するものであり、両社が円滑に導入できるよう配慮して欲しいという意見があった。

(14) 保険契約

IASB スタッフから間もなく公表される保険の公開草案について説明があった⁴。保険会社グループ代表の委員から導入が難しい基準なので、収益認識基準と同様の Forum（上記 2(2)参照）を設立して欲しいという意見があった。

以上

⁴ 6 月 20 日に公表された公開草案は下記から入手できる。

<http://www.ifrs.org/Alerts/ProjectUpdate/Pages/IASB-publishes-revised-proposals-for-the-accounting-for-Insurance-Contracts-June-2013.aspx>